



いいもの成らせるさくらんぼ便り

マメコバチ
特集号

マメコバチが減少している！増殖対策を徹底しよう！

- ◆近年、「マメコバチの激減」や「受粉樹の不足」で、「成りづらい環境」になっています。
- ◆さくらんぼを「絶対成らせる」ため、自園地の課題を分析し、対策を確実に実践しましょう！



【訪花昆虫】

- ① マメコバチのマユ洗浄の実施
- ② ミツバチの導入(20aに1群が目安)



【受粉樹】

- ① 切り枝の設置
・「紅さやか」の枝を多く残し、開花前に切って設置
- ② 高接ぎの実施
・2月中に穂木を採取し、4月中に高接ぎ



【摘芽】

- ① 摘芽程度の見直し
・例年より芽多く残す
・霜の常襲地帯では無摘芽

・結実が安定している園地は、「マメコバチ」と「ミツバチ」を併用している

【マメコバチ】比較的低温で活動、訪花数が多い

【ミツバチ】移動距離が長く、広範囲を訪花



・マメコバチの適切な飼養管理と、計画的なミツバチの導入で、

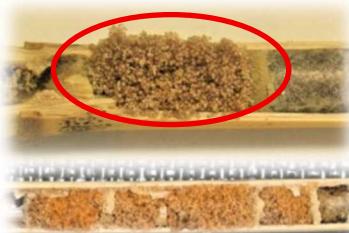
結実を安定させよう！

マメコバチ

1 ヨシ巣の更新

○ヨシ巣の確認

・古いヨシ巣には天敵が寄生している。2～3年ごとの更新が必須



コナダニ類



カツオブシムシ



入口がふさがっている巣でも、
天敵が蔓延している



○新しいヨシ巣の調整

- ・内径5～7mmの太さのものを使用
- ・節から9～15cm程度に切り、束ねる
- ・10a当たり、500～800本程度を用意

☆ヨシ筒内側の薄皮を除去することで、営巣率が向上

2 マユ洗�虑の実施

○天敵被害を防ぐには、**マユ洗�虑**が有効

(1) 実施時期

1 1月～3月上旬

(注) 遅くとも3月上旬までに
マユ洗�虑を終了する



(2) 準備するもの

接木ナイフ、ステンレスボウル、ザル(2mm目程度、ステンレス製)、
網しゃくし、ハケ、育苗箱、新聞紙、紙箱(マユ保管用)

(3) 注意点

- ・2～3年以上使ったヨシ巣では、必ず実施
- ・気温が低い場所で、冷水を使う
- ・マユをつぶさないよう、丁寧に優しく扱う
- ・切開時に出るゴミは、園地外で処分する

(4) 作業手順

① 巣筒を切開する



- ・巣筒の端に接木ナイフを当て、上に持ち上げるよう切開する

② マユを取り出す



- ・マユをつぶさないように取り出す
・切開後のヨシは適切に処分する

③ マユを冷水に浸す



- ・ステンレスボウルにマユを入れ、水を注ぎ、マユ全体が濡れるように浸し、かき混ぜるようにして汚れを落とす(約1分)

④ マユを洗�虑する



- ・ボウルの上にザルを重ね、網しゃくしでマユをザルに移す
・ザルに少量の冷水を入れる
・ハケでマユをザルに優しくこすり付け、表面の汚れを落とす(約3分)
※上記の手順を3回程度繰り返す
網しゃくしとザルは、洗浄・交換しながら使用する

⑤ マユの乾燥・保管



- ・新聞紙の上にマユを広げ、冷暗所で約2日間乾燥させる(※ネズミの食害に注意)
・乾燥したマユを紙箱に入れ、冷蔵庫等の涼しい場所で保管

切開後の巣筒は焼却するか園地外に埋めて処分する

3 洗浄マユの設置

(1) 設置時期

「佐藤錦」の発芽 10 日後
頃 (3月末～4月上旬)



↑ 設置時期の花芽

紙箱に鉛筆の太さ程度の穴を
複数あけて巣箱に設置↓



(2) その他

さくらんぼの開花とマメコバチの訪花を合わせるため、
ヨシ巣を冷蔵庫等の涼しい場所で保管し、開花に
合わせて巣箱に移動してもよい

4 増殖のための優良事例

(1) 冬期の作業

- 2～3年を目安に定期的にマユ洗浄を実施
- ヨシは、内径 5～7mm 程度のものを使用
- エアコンプレッサー やブラシで薄皮を除去

(2) 春期の作業

① 営巣環境の整備

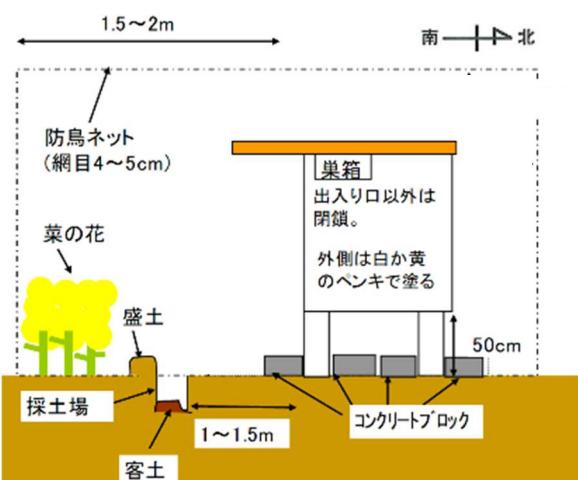
- 天敵を減らすため、巣箱内を掃き掃除

② 園地環境の整備

- 風上側に防風ネットを設置 (ハチの活動を阻害する場合があるため、全面被覆しない)
- 開花期間中は十分に灌水 (1週間で 10a 当たり 20t 程度が目安)
- 開花期間中は下草を除草しない (訪花昆虫の餌源とするため)

③ 管理のポイント

- 鳥害防止のため出入口の金網に加え、
広めに防鳥ネットを設置
(菜の花、レンゲ、クラブアップル、啓翁桜等)
- マメコバチ保護のため、**殺虫剤散布時**
は、板等で**巣箱の出入口を遮断**
- **ドラム缶**は、夏季に高温になりやすい
ため、**木製の巣箱**に更新



■ 巢箱設置の優良事例(「マメコバチ利用・
増殖の手引き」より)

※古いヨシ巣は3年を目安に処分する

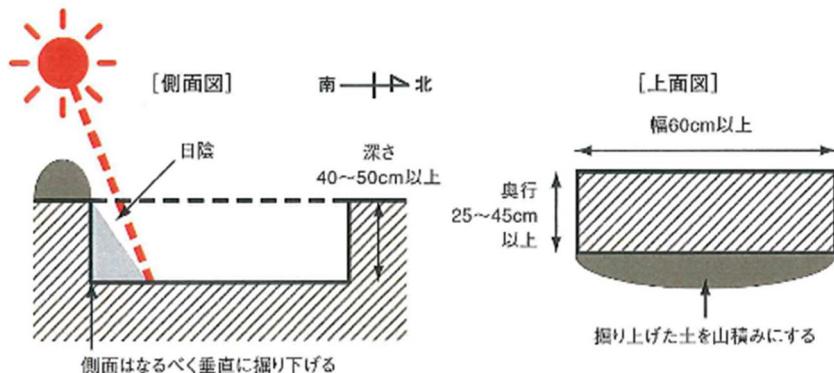


- ・マユを取り出した古い巣は、焼却又は園地外に埋めて処分する
- ・マユ洗浄をしない場合は、古いヨシを巣箱から出し、
シート等で覆い（出口を作る）、地面に設置し、
ハチが出た後に古い巣を処分する



④ 採土場設置のポイント

- 採土場は深く掘り (40~50cm 程度)、掘った土を巣箱の反対側に盛土
- 穴を掘る代わりに、バットに土を入れて設置しても良い (毎朝必ず給水 !)
- 保水性が高く、粘土質の強い土 (赤土や陶芸用の土等が適する) を使う



■バットを使用した事例
(乾かないように毎朝給水)

(3) 夏期の作業

- 巣箱を高温にしないため、断熱材等で遮熱 (40℃を上回るような極端な高温では、マメコバチがマユの中で死ぬ)
- ヨシ巣に直射日光が当たらないように、寒冷紗等で遮光 (熱気がこもらないように注意)
- ヨシ巣を小屋等の涼しい場所に移動して、保管してもよい



■断熱材を使用した事例
(ドラム缶は高温対策が必須)

(4) その他

- ハチマンションの利用で、マユ洗浄の効率アップ !
- ハチマンションはヨシ巣が入っていない巣箱に設置
- ハチマンションは自作可能 (杉板などの天然木材に、5~7mm のトリマーで溝を掘り、上下に重ねる)

市販のマメコバチマンションの例



■1セット両面で 114 穴、材質は杉板で、繰り返し使用が可能



■9月中旬開封時の営巣状況



■もみ袋とコンプレッサーで、省力的にマユの取り出しが可能

【農作業安全】剪定作業等、足場の悪いなかでの高所作業が増えてきます。雪上で脚立を使用する際には、足場をしっかりと踏み固め、必ずチェーンをかけ、最上段には上らないようにしましょう。

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課

TEL 023-621-8291

TEL 0237-86-8301

TEL 0237-47-8631

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会(事務局:農林水産部園芸天国推進課・農業技術環境課)